

地域探究活動

自分の興味関心を生かし、主体的に地元で活動する

浜商の探究活動とは **好き × 商業 × 地域**

『探究』とは、答えのない課題に対して、生徒自身が主体的に考え取り組む活動のことです。浜田商業の探究活動は、自分の興味関心のあるもの、いわゆる「好き」を出発点とします。自分の好きなことを地域で活かす方法を考え、仲間、先生、地域の大人と協働しながら、商業の知識技術を組み合わせて取り組んでいきます。



現地調査を行いインタビュー



商品開発における試作品製作



オンラインによる途中経過報告①



オンラインによる途中経過報告②

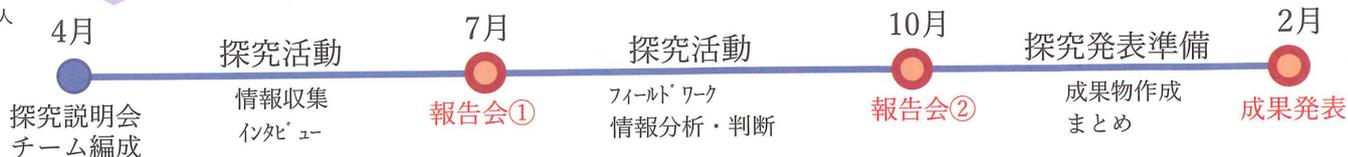


「地域探究」 最終発表会の様子



©山高守人

探究活動の流れ



OG's Voice



計画的に考える力が身に付く

私は地域研究を通して計画性をもって行動することの重要性を学びました。課題研究は自分達だけで活動することが難しく、校外の方に協力していただくことが多いと思います。そのためには、明確な計画を立て、具体的にどのようなことに協力していただきたいのか校外の方に理解していただくことが大切です。私は現在、銀行員として働いています。この経験は、仕事をする上で何を、何を優先すべきか計画を立てることに役立っています。これから課題研究を通して沢山の方々と関わって行くと思います。是非計画性をもって活動してみてください。頑張ってください。

令和3年度 情報処理科卒業 登尾 志野さん (島根銀行)



実際に生徒のアイデアをもとに考案された旅館の食事メニュー

IT人材育成事業

プログラミング技術と経営知識を学び、 新たなビジネスを創造する

情報処理科ではICTを活用して、地域に新たな仕事を創造する企業人を育成しています。プログラミング学習に加え、Steve Blank氏（スタンフォード大学）が提唱する顧客開発モデルの実践プログラム「リーンローンチパッド」を取り入れ、身近な課題から新たなサービスを考案する実践的な授業を行っています。

この学習を通して、起業だけでなく、様々な事象・課題に対して解決方法を模索し、よりよいサービスやシステムの再構築を提案できる人材として、これからの社会に求められる人材育成を目指しています。

身近な困りごとをビジネスに！

私たちの身の回りにある困りごとをビジネスに変えていく！ 高校生ならではの視点で、大人もびっくりのビジネスの卵が生まれています。年度末には、投資家や地元企業経営者に向けてビジネスプランを発表します。また、県内外のビジネスプランコンテストにも応募しています。



e-Front 島根支社
佐々木大輔 支社長
(本校卒業生)

講師紹介（令和4年度）

地元IT企業のエンジニアの方を講師に迎え、実際の企業でも使用される技術やワークツールを学び、学習の中でも活用しています。また、IT分野に限らず、様々な分野で活躍されている方にオンラインで講演いただき、幅広い知識や技術・経験を学ぶことができます。



©山高守人

1年間の流れ



OB's Voice

IT人材育成事業を通して



IT人材育成事業は3年次に週4時間で行われます。最初の頃は、「難しそうだなあ」と思っていました。しかし、授業を最後まで終えてみれば様々な事を学んでいたのだと気づかされました。コミュニケーション能力やアイデアの創造力、プレゼンテーション力など、ITが普及する現代ではどれも必要な力です。そして、それらを学べるのがこのIT人材育成事業です。進路選択において、IT企業を希望する人、そうでない人、とありますが、これからの社会において、どのような職場でも、必要なスキルを一年を通して学べます。大変ですが、実際のIT企業の方に指導していただけたのも魅力の一つです。各チームで1つのビジネスプランを考え、成果発表会では実際の投資家の方にコメントいただくことで、より実践的な“ビジネス”を考えることができました。

令和3年度 情報処理科卒業 藤井 亮太さん（島根大学）



1月 成果発表会の様子

令和3年度 生徒考案の新規ビジネス 例

「自分を知ることでもっと読書が好きになる」
選書アプリ Ence

